



村はひとつ 学校はひとつ 願いはひとつ

地域コミュニティを核とした
天栄だからできる少人数教育

2019.7.19

教育委員会だより No.96



愛村心（！尊心）を育む天栄村！

発行：天栄村教育委員会

非常災害時に備えて 「幼・小・中学校合同引き渡し訓練」 実施！

平成23年3月11日に発生した東日本大震災は、天栄村にも甚大な被害をもたらしました。さらに、近年は経験したことのない集中豪雨やゲリラ豪雨による水害とそれに伴って大規模な土砂災害が発生するなど、災害は、いつ、どこで発生しても不思議ではない状況となっています。また、「天栄村防災マップ(改訂版)」にもある通り、土砂災害や洪水などの危険箇所が各所に点在しております。

このような状況の中、本教育委員会では、児童生徒はもとより、保護者や地域の皆様の防災意識を高め、命や安全を守る取り組みの一つとして、昨年度、地区全体で避難訓練を実施した湯本幼稚園や湯本小・中学校を除いた天栄幼稚園・広戸小学校・大里小学校・牧本小学校・天栄中学校で**同時時間帯に「合同引き渡し訓練」を実施**しました。今回は、豪雨により警報レベル4（全員避難）の避難勧告が発令されたことを想定して実施しました。初めて引き渡し訓練を実施する学校もあり、学校への保護者の安全な誘導や正確で迅速な引き渡しの仕方などに課題が残りました。



このような課題を受けて、当教育委員会では統一した様式の「引き渡しカード」を作成し、保護者の皆様に配付いたしました。九州地方で起きた集中豪雨も「対岸の火事」と捉えず、**天栄村でも起こりうることであるとの認識を高め、家族や近所の方と災害時を想定した対応の仕方について話し合っておくことが大切**になります。「引き渡しカード」をよいきっかけとして、話し合ってみてはいかがでしょうか。

学校や地域の課題解決に向けて～学校運営協議委員による学校訪問

7月10日（水）に、学校運営協議委員による学校訪問を実施しました。今回訪問した学校は、広戸小学校・大里小学校・天栄中学校です。午前中は、子ども達の学習の様子や施設見学を行い、お昼は、広戸小学校で子ども達と一緒に給食を試食しました。これは、本村の課題でもある「体力向上」や「食育の推進」、「むし歯治療」についての状況を、実際の子どもの様子や学校の指導を見ていただくことも目的としています。午後には、3校より提示された課題の解決策について協議し、各委員の方からたくさんの意見をうかがうことができました。また、村内全ての小中学校の校長も出席し、情報を共有することができました。

主な課題と協議内容

- 少子化に伴い、各校の行事やPTA 作業なども以前のように出来なくなっていることについて
- 地域人材の活用と地域人材バンクの作成について
- 各校が統一した実践（カリキュラム作成・自己マネジメントできる家庭学習について）
- 各校に配置された「地域連携担当教職員」の活用について
- むし歯治療率や運動能力の低下について
- 部活動の在り方・教職員の多忙化 など

今回の学校訪問や協議会での提案を受け、各校で課題解決に向けて改善できることを実践するようになります。

次回は、9月に、牧本小学校・湯本小学校・湯本中学校を訪問する予定です。平日のお忙しい中、ご出席いただきました委員の皆様、ありがとうございました。





生涯学習事業

村民一人一人が自己の能力を高め、生きがいを持って豊かで充実した人生を送れるよう、誰もがいつでも自由に学習機会を選択していただけるよう、必要な学習環境を整え、村民の主体的な学習活動を支援出来るよう取り組んでいます。

○青少年育成村民会議総会

6月24日(月)に生涯学習センター多目的ホールにおいて、令和元年度天栄村青少年育成村民会議総会が開催されました。この会議は子ども達が安心して生活が出来る環境づくりを行うためのもので、学校だけでなく、駐在員や交通安全協会など地域の方々の協力を得て運営しています。

今年度は登校時の声掛け運動、各小中学校で学期末に児童・生徒による校内清掃の実施など、子ども達の安全のため、地域一体となって実施します。



○救急救命講習会

7月16日(火)に村青少年育成村民会主催の救急救命講習会が村生涯学習センターで行われました。夏休みを前に、参加者らはあらゆる場面を想定しながら、万が一の場合に備えて真剣な表情で講習を受けていました。



○つなぐ英語教育推進事業 (セカクル)

7月6日(土)に天栄中学校において、つなぐ英語教育推進事業「通称：セカクル」が開催されました。今年で4年目となる事業で、早稲田大学国際教養学部にも所属する学生サークル「セカクル」が来村し、中学生と交流を図りました。様々なゲームや村の良さを発見するディスカッションなど、生徒は終始、英語を使って実施していました。セカクルのメンバーには日本語がうまく話せない方もいましたが、一生懸命、日本語で説明する姿を見て、チャレンジする大切さ、一歩踏み出す大切さを学んでいました。

